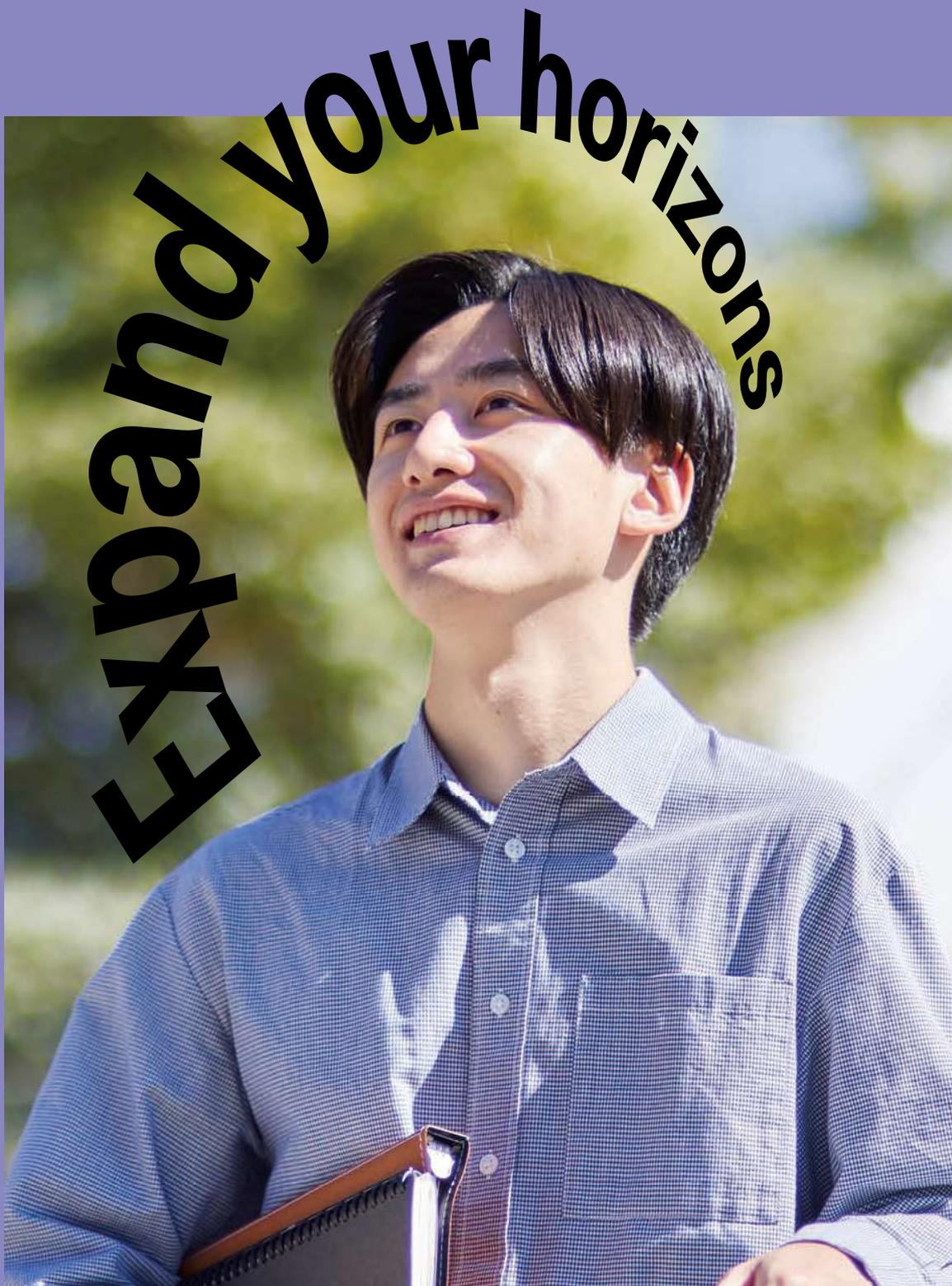


挑戦する大人たち

～海外大学院合格体験記～



*toefl.

*gre®

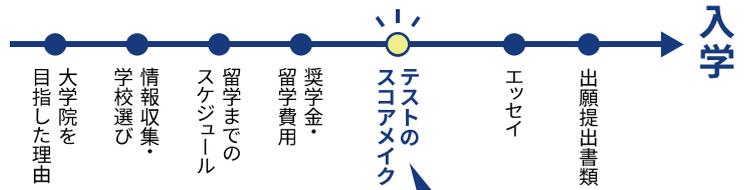
INDEX



大学院留学体験記

- page 2. | 田原 佑介さん
Columbia University Teachers College
- page 5. | 三野 絵里佳さん
UCLA: Anderson School of Management
- page 7. | 豊田 拓未さん
University of California, San Diego:
Rady School of Management
- page 9. | 木田 さち奈さん
Purdue University: College of Agriculture
- page 11. | 吉田 拓也さん
University of Pittsburgh:
Joseph M. Katz Graduate School of Business
- page 13. | TOEFL®・GRE®の概要

入学までの流れ



TOEFL®/GRE®スコアメイクの詳細が分かる!

1. TOEFL®、GRE®を選んだ理由、目標のスコア
2. 学習方法 (独学orスクール、参考にしたサイト、利用した教材など)
3. 学習期間 (学習期間と学習継続のモチベーションの保ち方など)
4. 受験申込タイミング (学習開始前or学習開始後)
5. 目標スコアまでの回数、スコアの遷移
6. 感想

! 本書の特徴

TOEFLとGREの“スコアメイク”の情報量の多さです。すぐに学習をはじめられるように、受験経験者のみなさまに、詳しく教えていただきました。

田原 佑介 さん

Columbia University Teachers College



目標スコアまでの受験回数

TOEFL iBT® 10回

出願スコア

TOEFL iBT® 100

社会人から大学院留学へのステップ

2020年4月	TOEFLスコアメイキング、大学調べ、奨学金調べ 開始
5月	TOEFL iBT初受験 スコア:82 (受験形式: TOEFL iBT Home Edition)
5~7月	奨学金申込み (履歴書・エッセイ・推薦状の依頼)
8~11月	エッセイを開始、履歴書・推薦書の依頼
12月	TOEFL iBTスコア100
2021年1月	出願
9月	Columbia University Teachers College入学

大学院留学を目指した理由

埼玉県の公立高校で英語教員をしながら、「授業力の向上を目指す」教育NPOで6年間にわたって活動したり、経済産業省のHero Makersというプログラムへ参加するなど、学校改革に取り組んできました。転機はHero Makersでグローバルに活躍されている先生方に会い、自分が思い描いている教育者のイメージや教員以外に「教育」に対するアプローチが多くあることを知りました。彼らが描いている「教育」を見てみたいと思うようになりました。世界中の教育者がどういう形で「教育」にアプローチしているのか、どのようなネットワークがあるのかを知るため大学院留学を目指すことにしました。また、公立高校の教員という立場だと、活動を続けていく中でよい成果が出ても、教育委員会ではなかなか受け入れてもらえないとことがあり、現状に限界を感じていました。周りを変える影響力を持つために、シンプルに肩書が必要だと感じたことも理由です。

情報収集・学校選び

困ったらHero Makersでお世話になった白川寧々さんの「ねねみそ相談サロン」で聞くこともありましたが、基本的にはブログ、

SNS、大学のWebサイトなど無料のコンテンツを利用しました。

留学前から学校改革に取り組んでいたこともあり、学びたい学問(School Leadership)が決まっていました。School Leadershipについて最先端の学びを提供している大学に行きたいと思い、世界大学ランキングの上位から調べていきました。

留学までのスケジュール

大学院では1月に出願というのが一般的だと思います。私の場合はそこから遡って前年の4月からTOEFLの学習を開始しました。秋入学のおおまかなスケジュールとして、「前年の夏までにTOEFL 100(目標点数)」「夏を終えたらエッセイを書く」のが理想的だと思います。

奨学金・留学費用

フルブライト奨学金、神山財団奨学金、コロンビア大学の3つの奨学金を受けることができました。ほぼ1,000万円近く支給していただきました。この奨学金が出なかったらお金の準備がとても大変だったと思います。奨学金は、自分の未来に投資をしてもらう

ことです。奨学金を受けられるかどうかは、どれだけエッセイでその未来を語るにかかっています。奨学金というと、凄まじい競争のイメージがありますが、自己分析の深さ、現状の課題の認識の深さが見られていると思いますので、諦めないでチャレンジしてください。

エッセイ

エッセイだけプロのコウンセラーにお願いしました。エッセイは自己分析が伴うことから就職面接と似ていて、自分が100点だと思っても他の人から見たら全然足りていないこともあり、メタ認知といいますが、違う人の視点を入れることはすごく大事です。

テクニック的なアドバイスは、長期ゴール、短期ゴール、大学で学びたいことがあり、なぜ行きたいのか、過去にしていた活動との繋がりなど、過去と、大学と、未来を繋げる



学校視察

作業になります。カウンセラーの方からは、「Why」(なぜなんだ)をすごく問われました。私としては、ロジカルに書いたつもりでも、全然繋がっていないように見えるといった指摘を受けたり、『長期ゴールが全然ワクワクしない』『どの出願先の志望も同じに見える』など、ツッコミを入れてもらいながら深めてきました。いわゆるこの英語の表現を使いましょうといったことだけでなく、『もっと夢を描け』『もっと大学を活用しろ』『受け身の姿勢ではなくて、自分はこうやって貢献できるんだ!』という姿勢を見せる』『長期ゴールは、ぼやっと描いても刺さらない』など、この留学の経験を活かして実現したいことを明確にするという視点を持たたことは、とてもありがたかったです。あの作業を自分だけで8か月やるのはかなりしんどいのではないかと思います。



コロンビア卒業

提出書類の準備

推薦書と成績証明書があると思いますが、まず、推薦書はとても大事だと思っています。奨学金の申請と大学の出願が必要なのですが、自分のエッセイとの一貫性や、あるいは、エッセイで言えなかったことを、別の視点で補ってもらえるものだと思います。ここでどういう風にアピールしてもらうか、インタビュー形式で、『こういう理由で大学院に行きたい』とあっていて、それをエッセイで書こ

うと思っているので、同じように推薦書でも書いてほしい』とお願いすることが大事です。一番良いのは理解してもらっている上司、学部時代にお世話になった教授などに書いてもらうのが一般的だと思うのですが、大前提で、お互いに尊敬し合い、理解してくれている人であることが大事です。成績証明書を英語にするのは、WES (World Education Services) というサービスを利用して変換して送りました。



フルブライト奨学金のセミナー



田原 佑介さんから読者のみなさんへ応援メッセージ

TOEFL® Web Magazineをチェック

TOEFL®を選んだ理由、 目標のスコア

学びたい学問 (School Leadership) の最先端の教育をしている大学がアメリカに多く、必然的にTOEFLを受験することになりました。GREについてはコロナ禍ということもあり免除でした。

学習方法

英語教員の経験から英語学習はすぐにボンと伸びるものでなく、毎日の学習が大切なことは分かっておりましたので独学で取り組みました。まずTOEFL iBT Complete Practice Test (オンライン模試) を受験して、単語は何語理解できたか、文章をどれだけ読めたか、どれだけ聞けたか、またなぜできなかったのか、という分析を行うところから始めました。

学習を始めるにあたり目標を達成された方のブログやnoteを参考にしました。参考にしたのは、例えば、にゃんこ先生でお馴染みのThere is no Magic!!というブログのTOEFL 100という記事です。使う教材、頻度、どういう風に問題を解いたらよいか、など詳しく紹介されていて参考になりました。

教材はThe OFFICIAL GUIDE to the TOEFL iBT Testを利用しました。単語を覚えて、問題集をやっていくというのが、ベースになると思います。またオンライン模試については復習がとても大事で、『なぜ解けなかったのかを理解して→次の仮説を立てる』というのをひたすら繰り返すことで、間違える問題には傾向が見え対策ができます。またTOEFLの目的を考え問題の出題意図を理解することも大事です。良い学習者とはどういう人物

であるかイメージをしたときに、生物、歴史、科学など教養が必要だと思いました。知識の凸凹をなくし教養を広げることが、TOEFLを採用している大学側にも求められている人物像だと思います。

スピーキングやライティングも実際の授業を想定して作られているので、内容も大事ですが瞬発力が一番大事だと思います。理由や具体例をできるだけロジカルでシンプルにまとめ、瞬発力がある解答ができるように気をつけました。例えば、賛成か反対か聞かれる問題では、『賛成です。なぜならば、教育にいいからです』『便利だからです』『環境にいいからです』などフレームワークを元にしました。フレームワークは人によって異なるといいと思います。よく海外の大学に行くと、『ポジションを取りなさい』と指導されますが、はっきりと、賛成なのか、反対なのか、そのポジションに立って述べるのが、ディスカッションに参加していることになり、ライティングでもあなたが書く意味があります。

学習期間

社会人にとっては学習時間の確保が大変だと思います。私の場合は、高校で英語教員をしていましたので、8~18時までは間違いなく時間が取れない状況で、またその年に1人目の子供が生まれ、20時から子供の寝かしつけがあり学習に使えないので、その前後の時間を使うようにしました。朝5~7時までTOEFLの勉強をして、夜の21~23時は、エッセイや大学院進学 of 奨学金調べの時間にしていました。このようなスケジュールを何年も続けることは、とてもしんどいと思い『今年行くんだ!』という強い決意で臨みました。

受験申込タイミング

奨学金の申請をするため、前年の5月までにTOEFL 80必要だったので、逆算して4月から勉強して、まずは1回目を受けました。理想はTOEFL iBT Complete Practice Test (オンライン模試) を2回受験して目標スコアを取れる状態で、本番を1回受験することが良いと思います。

目標スコアまでの回数、 スコアの遷移

出願までにTOEFL iBTは2か月に1度で10回ほど、主に自宅 (TOEFL iBT Home Edition) で受験をしました。4月に受けたTOEFL iBTのスコアは82でしたが、8か月後の12月には出願に必要な100を取得することができました。

感想

学部の時にTOEFLを受験していれば良かったと思います。当時、埼玉県はTOEICで基準のスコアを取得すると教員の採用試験が免除になるというルールがありましたが、それがTOEFLだったらもっと早めに留学に行けたと残念に思います。

教員だけでなく生徒にとっても、高校でTOEFLを意識して勉強することは、すごく大事だと思います。日本の英語のテストだとどれだけ良い点数を取っても世界との距離がわからないことは問題だと思います。英語の先生でTOEFLを指導できる先生が少ないなど、ハードルもあると思いますが、高校生のうちに世界と自分との距離感を知るのはすごく大事だと思います。

プロフィール

Loopal <http://loopal.co.jp/>

Twitter @TaharaYusuke

LINE <https://line.me/R/ti/p/@000qclhk>

公立高校で8年間、英語教諭として勤務。学校で5000人以上の高校生と関わるほか、NPOとして6年間活動。高3を担任しつつ米国大学院を受験。フルブライト、神山財団、コロンビア大学から奨学金を受給し、2022年Teachers College, Columbia Universityを卒業。スクールリーダーシップの修士号を取得。日本の若者が、国際的に通用するスキルを身につけ、理想のキャリアを実現するサポートをするために、LOOPALを起業。

三野 絵里 さん

UCLA:Anderson School of Management



出願スコア

GRE® 322 (Verbal Reasoning : 156,
Quantitative Reasoning : 166)

TOEFL iBT (アメリカの大学を卒業していたため免除でしたが、学部留学の時に1年半程かけて10回以上受験し、スコアも40から105まで上げました)

社会人から大学院留学へのステップ

2020年7月	GRE対策開始
9月	GRE初受験 スコア317 (Verbal : 154, Quant : 163, AW : 4.0)
10月	コロナの影響で留学一度断念することに
11月	GRE 2回目受験 スコア317 (Verbal : 154, Quant : 163, AW : 3.5)
2021年9月	留学再挑戦決意
9~12月	GRE公式問題集や他出版社の問題集、単語アプリを用いて自己学習
12月	GRE 3回目受験 スコア322 (Verbal : 156, Quant : 166, AW : 4.0)

大学院留学を目指した理由

学部生時代にアメリカの大学で統計学を専攻していた私は、大学を卒業後は引き続きアメリカの大学院へ進学して統計学に関連した学問をより深く学びたいと思っていました。ですが大学の卒業時期がパンデミックと重なってしまったため、一度進学を断念して日本の企業に新卒として就職したのですが、どうしても諦めきれず1年越しで再挑戦することを決意しました。

情報収集・学校選び

統計学に関連する学問を学びたいと考えていたので、まず最初に、数十校の大学のHPをチェックし、各大学がどのような大学院のプログラムを提供しているのかを調べました。

数百のプログラムについて知っていく中で、自分の興味とマッチするのはBusiness AnalyticsやData Science, Applied Statisticsなどのプログラムであることが出来ました。特にBusiness Analyticsという統計学やデータサイエンス、ビジネスを組み合わせた学問が非常に魅力的だったので、カリキュラムやランキングなどを参考にしながらBusiness Analyticsのプログラムを中心に出願することを決めました。

学校選びは、Business AnalyticsやAnalytics/Data Science, Applied Statisticsなどのプログラムを中心に、ランキングやカリキュラム、卒業生の就職先などの情報を参考にしながら出願校を選定しました。最終的には以下の5校に出願し、その全てから合格をいただくことが出来ました。

- University of California, Los Angeles (MS in Business Analytics)
- University of Southern California (MS in Business Analytics)
- University of California, Davis (MS in Business Analytics)
- Columbia University (MS in Applied Analytics)
- Cornell University (MS in Applied Statistics)

この5校からUCLAを選んだのは、Business Analyticsの分野で世界的な評価が高いこと(4年連続世界2位)、立地(Los Angelesは私が興味あるエンターテインメントやテック企業のオフィスが多い)、そして出願時や面接時のAdmissionとのコンタクトを通してプログラムの雰囲気や校風が合っているように感じたからです。

留学までのスケジュール

まずTOEFLはアメリカの大学を卒業していたため免除されました(余談ですがアメリカの大学学部課程を受験する際はTOEFLが必要だったので、1年半程かけて10回以上受験し、40点代から105点まで上げました)。

そしてGREについては、コロナの影響で一度大学院留学を延期したため一部準備期間にギャップがありますが半年ほどかけて準備しました。エッセイなどの出願書類も再度留学を決定してから約半年程かけて準備しました。

奨学金・留学費用

留学費用については、大学からの奨学金(正式名称: Anderson Merit Fellowship)、地元のロータリークラブからの奨学金



美しい大学の構内

GRE®を選んだ理由、目標のスコア

コロナの影響でGREの提出は必須ではなかったのですが、strongly encouraged (提出を強く勧める)としている学校が幾つかあったため、受験することにしました。スコアは330点 (Verbal Reasoning:160, Quantitative Reasoning:170) を目標にしていたのですが、残念ながらそのスコアには及ばず最高は322 (Verbal Reasoning:156, Quantitative Reasoning: 166) でした。

学習方法

GREは公式問題集や他出版社の問題集、アゴス・ジャパンのGRE対策授業の受講などを通して、Verbal Reasoningセクションの点数

を上げることを中心に対策を進めました。

学習期間

- 2020年7-9月:アゴス・ジャパンのGRE対策授業の受講
 - 2020年10月留学一度断念すること
→2021年9月留学再挑戦決意
- 2021年9月-12月:公式問題集や他出版社の問題集、単語アプリを用いて自己学習

受験申込タイミング

学習を開始してから申し込みました。

目標スコアまでの回数、スコアの遷移

GRE受験回数: 3回

- 1回目 (2020-09-04)
 - Verbal: 154, Quant: 163, AW: 4.0
- 2回目 (2020-11-27) この時点で留学の延期を決定していたものの既に予約していたので受験
 - Verbal: 154, Quant: 163, AW: 3.5
- 3回目 (2021-12-27)
 - Verbal: 156, Quant: 166, AW:4.0

学習方法

英語が母国語ではない私にとってやはりGREのVerbal ReasoningとAnalytical Writingのセクションは特に苦勞しました。

(正式名称:国際ロータリー 第2670地区補助金奨学金)、そして両親からの支援でカバーしています。外部の奨学金に関しては締め切りの2か月程前からエッセイなどの必要書類の準備を始めました。

エッセイ

エッセイについては大学院進学への再挑戦を決めた2021年9月から全ての出願が終わった2022年1月まで約5か月かけて準備しました。アゴス・ジャパンのコンサルタントとの定期的なミーティングを通してエッセイの内容を練り、計12本ほどのエッセイを作成しました。

提出書類の準備

推薦書は大学学部時代にお世話になった



大学のマスコットである熊の像の前でプログラムの同期・スタッフとの集合写真



三野 絵里佳さんから読者のみなさんへ応援メッセージ

TOEFL® Web Magazineをチェック

統計学科の教授2人に依頼しました。教授たちは、私が大学在学時から大学院進学を希望していることを知っていたので、一度断念した留学に再挑戦することを決意してすぐにコンタクトをとり(この時点で出願約4か月前)、正式に依頼しました。

エッセイや一部の学校が要求する自己アピールビデオなどについては前述の通り約半年ほどかけて準備しました。



友人の家でThanksgiving Dinner



友人の誕生日を祝った食事会

プロフィール

香川県出身、高校卒業後に渡米。2017-2021年までミネソタ州のCarleton Collegeに在学し、統計学専攻で卒業した。卒業後は日本に帰国し、IT企業に新卒として就職したが、大学院進学に興味があったため挑戦を決意。現在はカリフォルニア州のUCLAのAnderson School of Managementのビジネス分析学修士課程に在籍 (2023年12月卒業予定)

豊田 拓未 さん

University of California, San Diego: Rady School of Management



目標スコアまでの受験回数

TOEFL iBT® 12回 / GRE® 1回

出願スコア

TOEFL iBT® 102 / GRE® 318

社会人から大学院留学へのステップ

2021年3月	社内のMBA留学候補生に内定、留学準備開始
	TOEFL iBT初受験 スコア:70前半 (受験形式: 自宅模擬試験)
10月	TOEFL iBTスコアメイク完了 スコア:102
12月	GMAT受験 スコア:620
	レジュメ・エッセーの準備開始
2022年1月	GRE受験 スコア:318 (Math:170, Verbal:148)
3月	University of California, San Diego: Rady School of Management合格

大学院留学を目指した理由

大学卒業後、日系の鉄鋼メーカーに就職して、約8年間ドメスティックなキャリアを歩んでいましたが、グローバルで競争力のある環境に身を置きたいと常に思っていました。また、社内のDXの企画を担当した際に、ビジネスマンとしての引き出しの少なさやマネジメント力の低さに危機感を覚え、あらためてビジネスの理論やリーダーシップを体系的に学びたいと考えていました。そんな折に、運よくMBA留学の社内推薦の話が舞い込み、飛びついたのであります。

情報収集・学校選び

社内の留学経験者へのヒアリング、通学していた塾(アゴス・ジャパン)や各大学が主催するInformation Sessionへの参加がメインでした。特に通学していたアゴス・ジャパンの夏まつりと言われる学校説明会では、世界のトップスクールが一同に集まり、効率的に留学先の情報を入手できる良い機会でした。ヒアリングした内容は自作のテンプレート(授業、プロジェクト、校風etc.)にスクール毎に纏めて管理しました。大学院のエッセイや面接では「何故このスクールか?」という質問が常套句なので、比較しやすいように

纏めておくと何かと便利です。

学校選びは、学部時代に経営学をすでに学んでいたこともあり、座学よりも実践的なカリキュラムが充実しているスクールで絞りました。また、今後のキャリアでキーとなるEntrepreneurshipやData Analyticsにフォーカスできるプログラムであるかも意識しました。ランキングは重視しませんでした。自分の力を試す良い機会と思いトップスクールも受験のポートフォリオに含めていました。

留学までのスケジュール

過去の社内の留学生に倣ってエクセルでスケジュール表を作成しました。海外の大学院留学は準備項目が多岐にわたるので、事前にto doを整理することは必須です。過去の留学経験者や予備校のフォーマットでも何でもいので簡単に作成すると思います。スコアメイクなどスケジュール通りにいかないことの方が多いのですが、早期にスケジュールの全体感を掴んでおくことで後手のアクションを回避できます。

奨学金・留学費用

社費でしたので、予備校・テスト費用含めて会社が全て負担してくれました。

エッセイ

エッセイは、幼少期から人生を振り返り一気通貫のストーリーを設計しました。そのストーリーをベースに、出願書類全体で自分が過不足無く表現できているかを意識しながら内容の取捨選択をしました。原案作成後は、予備校アゴス・ジャパンのネイティブ講師に添削を依頼しました。何人かの講師に接触し、相性が良いと感じた2人とやり取りしました。タイプの違う2人を選択することで回答が多面評価されてエッセイを洗練させていくことが出来ました。

提出書類の準備

エッセイの他に、レジュメ・推薦状を用意する必要がありました。レジュメは、エッセイと同様にアゴス・ジャパンのカウンセラーに添削を依頼して仕上げました。推薦状は、最低2通必要なスクールが多く、私は信頼のできる現職・元上司に依頼しました。矛盾が生じないように依頼時点でのレジュメやエッセイは共有しましたが、推薦状の内容自体は2人に完全に一任しました。

TOEFL®を選んだ理由、 目標のスコア

TOEFLは、21年3月に初めて受けた模擬試験が70点代前半で、そこから継続的に月1〜2ペースで受験を続け、最終的な出願スコアは10月に獲得した102点(R:28, L:27, S:22, W:25)でした。GREは、当初受ける予定はありませんでしたが、GMATのスコアが600点代前半と伸び悩み、予備校と相談し試しに一夜漬けで受験したところ、出願スコアとなる318点(Math:170, Verbal:148)を取得することが出来ました。

米国TOP10のトップスクール合格に有利となると言われるスコア(TOEFL:105点、GRE:GMAT換算700点)をチャレンジ目標とし、米国TOP20合格に必要なスコア(TOEFL:100点、GRE:GMAT換算650点)を最低目標に設定しました。結果は上述の通り、TOEFL:102点、GRE:318点(GMAT換算670点)でした。また、出願可能なスクールは絞られますが、Executive Assessment(EA)と呼ばれるGMATの簡易版のテストも受験し、こちらは161点(GMAT換算720点)と競争力のあるスコアを獲得することができました。

学習方法

TOEFLの対策は、基本的に予備校アゴス・ジャパンの授業と復習でした。スピーキング

とライティングは、添削される機会が他にも必要と考えて、オンライン英会話や外部講座(TST PREP)を+αで受講しました。リスニングは、多くの受験生と同様に一番苦労しました。アゴス・ジャパン教材を根気強くシャドウイング・暗唱し、慣れてきたら倍速で聞くようにすることで、20点代後半が出るようになりました。GREは上述のとおり一夜漬けの対策でしたが、GMATの対策が活きました。よく言われることですが、単語問題を除いてGMATからGREへの転向は難しくありません。GMATで対策をしているけど要領よく点数を取る自信がない...という方は、GRE受験を見据えた単語勉強を早めにスタートし、GMAT・GRE両方に対応できるようにすると良いと思います。単語はどのテストでも役立つのでどれだけ覚えても損はありません。私もGRE向けの単語の学習をしていればGREの点数を更に伸ばせたのではないかと少し後悔しています。

学習期間

社内のMBA留学候補生に内定した3月から準備を開始し、Round2(翌年1〜2月)の出願を念頭にスケジュールを設計しました。秋までにテストスコアを終えて、それからエッセイ・インタビュー・他書類の準備に取り組んで...と緻密なスケジュール目標を立てていましたが、実際はそんなに甘くありませんでした。スコア獲得までの期間としては、TOEFLは70点台から最低目標である100点超えま

で7ヶ月、GREは前述の通りGMATの素養を身につけた上で一夜漬けで出願スコアを獲得しました。

受験申込タイミング

TOEFLは勉強を開始してから2か月ほど、ある程度解法のイロハを学んだ後に初回を受け、それからは月1〜2で定期的に受験しました。会場の雰囲気や時間配分を覚えるために早めに初回受験を済ませることをお勧めします。また、数打てば当たる簡単なテストではないですが、出題される問題の得意・不得で点数のバラツキが出ることはあるので、実力が十分についたタイミングでスコアが出るまで立て続けに受験するのも手です。一方で、GREは受験回数上限が定められているので、もう少し戦略的に受験タイミンを決める必要があります。

感想

MBA受験では多くのビジネススクールがTOEFL or IELTS、GMAT or GREそれぞれの出願を認めています。私の場合は、安直に過去の社費生が歩んだ道だからという理由で、TOEFL・GMATのセットを選択しましたが、今受験時代に立ち戻るなら、より自分と相性の良いと感じたGREの学習をもっとやっていたと思います。



豊田 拓未さんから読者のみなさんへ応援メッセージ

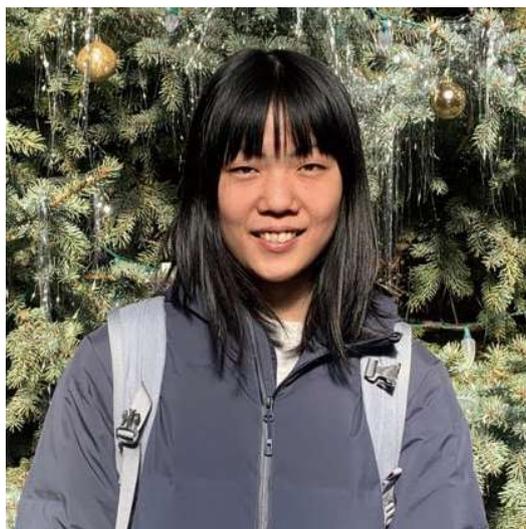
TOEFL® Web Magazineをチェック

プロフィール

大学卒業後、日本製鉄株式会社へ入社。8年間の勤務を経て、留学・海外勤務経験はなかったものの、会社からの指名でMBA留学を志すことに。1年弱という短い準備期間で米国TOP20校を含む複数校から合格を獲得。合格校の中からカリフォルニア大学サンディエゴ校の新進気鋭のビジネススクールに進学を決定。現在、同校に在籍。

木田 さち奈 さん

Purdue University: College of Agriculture



目標スコアまでの受験回数

TOEFL iBT® 13回 / GRE® 4回

出願スコア

TOEFL iBT® 90 / GRE® 320

社会人から大学院留学へのステップ

2021年2月	TOEFL iBTスコアメイク開始
5月	TOEFL iBT初受験 スコア:69
7月	GREスコアメイク開始
	GRE初受験 スコア:300 (Verbal: 141, Quant: 159, AW: 2.0)
10月	レジュメ・エッセイの準備開始
2022年1月	GREスコアメイク完了 スコア:320 (Verbal: 150, Quant: 170, AW: 3.0)
2月	TOEFL iBTスコアメイク完了
8月	Purdue University: College of Agriculture入学

大学院留学を目指した理由

もともと私は、日本の大学で経済学を学んだ後、公認会計士として約7年間働いていました。そのうちの後半の時期、食品関係の会社で経理として働いていた時に、もっと生産者(農家・農業法人)に近い仕事がしたい、究極的には日本の農業に貢献したいという想いを持つようになりました。一方で、農業に関して何ら知識・経験を持ち合わせていなかったため、一度きちんと学ぶ時間がとりたいと思っていました。

そんな中、食・農業関係の勉強会に参加して、アメリカのフードテック企業の躍進について知る機会がありました。今思えばそれは一つのきっかけに過ぎなかったのですが、海外に住んでみたいという興味や社会人として学び直しをしたい時期だったことなども重なり、大学院留学を目指すことにしました。

情報収集・学校選び

情報収集は、アゴス・ジャパンさんにお世話になり、海外留学とはどのようなもので、何から始めればいいのかについて教えてもらったり、留学準備の進め方について個別にアドバイスを受けたりしました。また、兄が留学経験者だったので、定期的に相談に乗ってもらっていました。(そもそも私に留学を

勧めてくれたのも兄です。)その他、前年に大学院留学(or学部留学)を叶えた人のTwitterやブログなども日常的に見ていて、モチベーションを維持したり、細かなプロセスを参考にさせてもらったりしました。

学校選びに関しては、分野別の大学院ランキングでなるべく上位の学校の中から、「出願期限」「必要なTOEFLスコア」が現実的だと思える学校を探しました。その他、プログラムの期間やそのプログラムで学べる内容もそうですが、大学の立地や大学の雰囲気なども重視しました。

人によって好みがあるかと思いますが、私はあまり日本人の多くない地域・大学や、田舎にある大学に惹かれる傾向にありました。また、最終的にはパデュー大学のPodcastを聞く中で、大学やそこで学ぶ学生の雰囲気が自分に合いそうだったのが決め手になりました。

留学までのスケジュール

「TOEFL/GREスコアメイク」の項目に記載したような、ざっくりとした出願までのスケジュールは立てていました。ただ、働きながら勉強をしていたこともあり、思うように勉強時間を確保することが難しく、1日の学習計画をきっちり決めるようなことはできていませんでした。

奨学金・留学費用

私費留学です。奨学金の給付を受けたいと思いましたが、奨学金の申請時期までに必要なTOEFLスコアを取得できていなかったこと、そもそも大学院の出願だけでも間に合うかどうかギリギリのスケジュールだったこともあり、受けるには至りませんでした。

エッセイ

エッセイ添削はアゴス・ジャパンさんにコンサルティングをお願いしたことに加えて、EssayEdgeのサービスを利用したり、知り合いにお願いしたりしました。

提出書類の準備

大学院留学を今まで考えたことがなかったの、分からないことだらけでした。推薦状は誰に書いてもらえばよいのだろう、エッセイは誰にどのように添削してもらうのがいいのだろうなど、調べなければならないこと・考えなければならないことがいっぱいあって、頑張っても頑張っても終わらない、と何度思ったかわかりません。(出願作業がすべて終わった時には、嬉しいというよりもむしろ「あれ?終わってる?」と不思議な気持ちになりました。)

TOEFL®、GRE®を選んだ理由、 目標のスコア

大学院留学を目指し始めたころに、ざっくりと次のような計画を立てました。

TOEFLのスコアメイク(約5か月間)

→GREのスコアメイク(約3か月間)

→レジュメ・エッセイなどの出願準備
(約3か月間)

実際には全くこの通りにいかず、TOEFLがいつまでたっても目標点数に届かなくて焦り、最後のほうは色々と並行して進めざるを得なくなり苦労もしました。ただ、出願期限から逆算してスケジュール感に落とし込んでおき、目標はなるべくぶらさないで適宜細かな修正を加えるというやり方はよかったですかなと思います。

■ TOEFL®

私は大学選びに際し、TOEFLで80点前後が必要な大学を選んでいました。そのため、第一段階の目標としてトータルスコア80点、その後はトータルスコア90点を目指しつつ、各大学のセクション別最低点を超えることを目標にしました。特にスピーキングで18点を超えることに苦労しました。

■ GRE®

出願にあたり大学からの最低要求スコアは特になかったため、自分の中でも明確に目標

スコアを決めることはしていませんでした。

学習方法

■ 独学orスクール

TOEFL/GREは、基本的には独学でした。

■ 参考にしたサイト

海外大学院出願プロセス、TOEFL勉強法、渡航準備などについて大いに参考にさせていただきました。私が受験した前年に受験した方々だったので、リアルな声を聞いてモチベーションの維持にもなりました。

- <https://saekolog.com/>
- <https://yusuketahara119.com/>

■ 利用した教材

スピーキング

- レアジョブ
- DMM英会話

リスニング(Podcast)

- All Ears English
(Transcriptsも一時期購読しました。)
- Down to Business English
(無料で聞ける範囲で聞いていました。)
- 志望大学のPodcastプログラム

ライティング(スピーキングも部分的に)

- トフレ! (個人的には、ライティングの添削はもちろんですが、メールでTOEFLの学習の進め方についてアドバイスや励ましをいただいたのが大きかったです。)

学習期間

2021年2月初め～2022年2月中旬の約1年間(はじめのうちは仕事と並行。2022年1月以降は会社を辞めていたので、留学準備に専念しました)。

受験申込タイミング

学習を開始したのが2021年2月の初め頃で、初めてTOEFLを受験したのが、2021年5月です。その後は、おおよそ1か月に一回(出願直前期は1か月に2回)のペースで受験しました。

感想

TOEICは何度か受けたことがあり、同じ会社実施するテストであればなんとなく安心だし、慣れているかなと思いました。私の受験した時期にはすでに、TOEFL iBT Home Editionが利用可能だったのですが、外出することに不安がある時期でも自宅で受験ができること、会場までの往復時間を節約できること、周りの受験生に気を取られずにテストに集中できること、テスト会場で受ける場合よりも選べる時間帯の幅が広がったことなどから、積極的に活用していました。(なお、初めのうちは、テストの雰囲気も分かっておらず不安だったので、テスト会場で何度か受験しました。また、最終的に一番良い点数が取れたのは、テスト会場での受験でした。)



木田 さちなさんから読者のみなさんへ応援メッセージ

TOEFL® Web Magazineをチェック

プロフィール

1992年生まれ、岐阜県出身。2015年東京大学経済学部卒業。大学在学中に公認会計士試験に合格し、大学卒業後は大手監査法人に勤務。その後転職し、食品関連会社の財務経理部にて勤務。農業生産により深くかかわる仕事がしたいと思うようになり、2022年8月からパデュー大学に留学し、農業経済学を学んでいる(修士課程)。

吉田 拓也 さん

University of Pittsburgh: Joseph M. Katz Graduate School of Business



目標スコアまでの受験回数

TOEFL iBT® 8回 / GRE® 2回

出願スコア

TOEFL iBT® 83 / GRE® 312

社会人から大学院留学へのステップ

2020年10月	TOEFL iBT初受験 スコア51
2021年2月	TOEFL iBTスコアメイク開始
8月	TOEFL iBTスコアメイク完了/GMATスコアメイク開始
10月	GMAT受験 / GREスコアメイク開始
11月	GRE受験、スコアメイク終了
2022年1月	University of Pittsburgh: Joseph M. Katz Graduate School of Business合格

大学院留学を目指した理由

海外の大学院留学を志望した理由は大きく分けて2つあります。1つ目は、将来的に経営層に近いところでマネジメントを行っていく上で、経営全般の知識やスキルをアカデミックな部分から体系的に身につけたく、大学院で網羅的に学びたいと思ったからです。2つ目は、会社としても海外事業に力を入れていることから、異なるバックグラウンドの方々とのコミュニケーションを取る海外留学は、非常に良い経験になるのではないかと思います。

現在、MBAとMaster of ScienceのDual Degreeプログラムを履修しています。

情報収集・学校選び

私の勤務している会社では長年社費留学の制度があり、先輩方にTOEFLや留学先のことなど直接聞く機会がありました。またアゴス・ジャパンに通ったので、講師の方やカウ

セラーの方からも情報を得ていました。

学校選びは2年制のプログラムを希望していましたが、ヨーロッパは2年制のプログラムがあまりないので、アメリカでスモールスクール、クラスメイトが少ないところ、かつ、留学生比率が高いことを条件に搜した結果、約5校の候補校の中から最終的にはピッツバーグ大学を留学先に選びました。

選択の決め手になったのは、ピッツバーグ大学がチームワークや経験学習を重視しており、知識を得るためのレクチャーだけではなくグループワークも多く、その中でリーダーシップやコミュニケーション能力といったソフトスキルを学べると思いました。

留学までのスケジュール

仕事をしながらの留学準備は非常にタイトでしたが、まずはTOEFLのスコアメイクから始めて完了した段階で、GMATに移行しました。

奨学金・留学費用

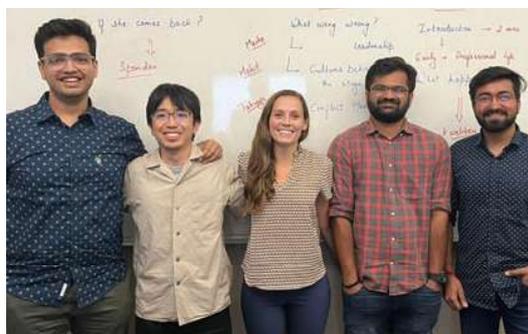
社費留学だったので、留学費用は会社から支給されています。アゴス・ジャパンの受講料、学費、生活費の補助、家賃の補助、渡航費、家財道具の郵送費など、基本的には丸ごと

負担してもらいました。アパートは自分で見つけて家賃を交渉しました。また、満額ではありませんが給料も支給されているので、それを生活費に充てています。

エッセイ

エッセイでは、聞かれている内容に対してストレートに答えることを心がけました。英語圏の文化は日本語圏とは違い、よりはっきりと直接的に言ったり書いたりする文化なので、聞かれていることに対しては丁寧かつ明確に分かるように書くようにしました。ピッツバーグ大学では2種類のエッセイ課題がありました。1つは『なぜMBA?なぜピッツバーグ大学?』という質問でした。なぜMBAかということに対しては、マネジメントを目指していることを、また、なぜピッツバーグ大学かについては、スモールスクールで留学生比率が高いことなどを説明しました。もう1つはフリー課題だったので、今まで私の会社での実績など達成してきたことや強みを中心に書きました。

レジュメやエッセイの作成を通して自分がしてきたことやこれからやりたいことをきちんと棚卸しして振り返ることができ、その後のインタビューでも非常に役に立ちました。



TOEFL®を選んだ理由、 目標のスコア

IELTSは受けたことがあります。アメリカの大学院への留学を想定していたのでTOEFLを選びました。

TOEFL®学習方法

1日の学習時間は隙間時間を含めれば5時間ぐらいで、アゴス・ジャパンの教材を中心に勉強しました。英語に触れることを意識して、通勤時などは口パクでシャドウイングをしたりアプリを使って単語を覚えたり、昼休みはディクテーションをするなど、忙しい中でも隙間時間を見つけて必ず勉強をするようにしました。英単語はTOEFL英単語3800のアプリを使いました。

目標スコアまでの回数、 スコアの遷移

TOEFLは8回受験しました。アゴス・ジャパン

で受講する前に1回、受講してからは月1回のペースで7回テスト会場受験しました。会場選びは非常に大事で、4か所の会場に行きましたが、隣の席と近かったり仕切りが十分でないなどで、周りの受験者のスピーキングの音が気になったりすることがありました。

GRE®を選んだ理由

最初はGMATで考えていました。目標スコアは600でしたが1回目の受験で510だったため、GMATは自分とは相性も良くないと思いGREに切り替えました。GREでは1回目でGMATの570相当を取得し、結局それが提出スコアになりました。個人的な感想ですが、GMATのVerbalでは特有の文法があったり1問ずつのCAT形式ということもあって運に左右されるように感じましたし、MathについてもGMATでは数学力以外のことが問われているように思い、自分にはGREの方が受けやすいテストでした。

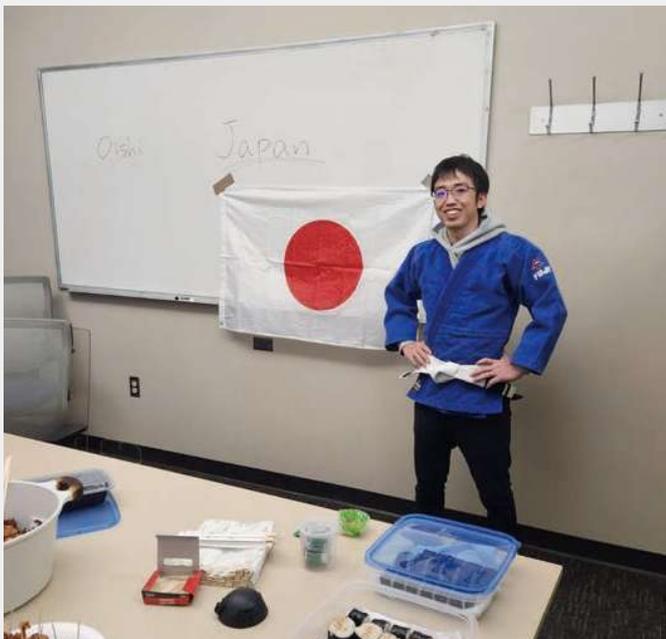
GRE®学習方法

GREの対策はほとんど行っていません。GMAT受験後にGREに切り替えて、2週間後に受験しました。

1日の学習時間は5時間ぐらいでした。具体的には、Verbalは語彙がTOEFL以上に難しいので、GRE専用の単語集を使って学習しました。Mathについては、数学特有の英単語というのを押さえて、高校生用の教科書で対策を行えば問題ないかと思います。

感想

IELTSとの比較で言えば、TOEFLの方がよりアカデミックだと感じていて、その点はポジティブに捉えています。TOEFLは実際に大学や大学院の授業を想定して作られているので、内容は実際に留学して授業に出た時に近い部分があります。そのため、TOEFLでスコアを取れるということは、留学した時の自分の英語の実力ギャップが少ないのではないかと思います。



吉田 拓也さんから読者のみなさんへ応援メッセージ

TOEFL® Web Magazineをチェック

プロフィール

大学卒業後、セキュリティ企業に入社。経理部にて月次・決算業務等を担当。University of Pittsburgh: Joseph M. Katz Graduate School of Businessへ社費留学し、MBAおよびMS Finance課程に在学中。

TOEFL iBT®とは

海外の大学院で求められる英語運用能力を測ります。

テスト時間
約2時間

→ TOEFL®の学習で何が身につく? TOEFL®が海外留学に最適な理由

海外の大学・大学院の授業で、講義やディスカッション、クラスメートや教授との会話や課題のエッセイ等に
取り組むための基礎的スキルが身に付きます。各セクションの対策で身につくのは次のような力です。



Reading

長文のPassageを読むための多読力。
アカデミックな問題を解くための精読力。

試験時間 35分

問題数 20問 (1パッセージ10問×2)



Listening

大学院留学の授業と同等のスピードで
教授やクラスメート、キャンパスカウンセラーの説明や
講義、意見を聞き取る力

試験時間 36分

問題数 28問 [講義 3題 (各6問) 会話 2題 (各5問)]



Speaking

大学の授業で問われるような質問やディスカッションに
対応できる力。1分以内に自分の意見をまとめて回答する力
(決められた時間の中で簡潔に自分の意見を述べる力は、
就活やインターン応募の際の自己紹介等でも役立つ)

試験時間 16分

問題数 4問 [Independent task 1問
Integrated tasks (統合型) 3問]



Writing

タイピング力。
エッセイの構文やストーリーをまとめる力。

試験時間 29分

問題数 2問 [Integrated task (統合型) 1問
Academic Discussion task 1問]

→ 学習サポート

1

目標スコア別、スキル別の セミナーアーカイブを活用しよう!

はじめて受験をする方から目標スコアに向けて
学習を継続中の方まで活用いただける過去の
セミナーを無料アーカイブ配信中。
時間や場所の制限を受けず、何度も繰り返し視聴
することで理解度が高まります。



セミナーアーカイブは
こちら



2

TOEFL iBT®対策プラットフォーム

2024年2月に提供が開始されたTOEFL iBT対策
プラットフォーム TOEFL TestReady。
これまでテストの受験予約やスコアの確認で
使っていたETSアカウントからアクセスすることが
できます。



TOEFL® TestReady™は
こちら



3

TOEFL iBT®公式教材

学習開始から本番直前の仕上げまで、TOEFL iBT
公式教材の利用をおすすめしています。大学院
留学や奨学金申請など高スコアを目指すなら、
世界中の受験者が利用している英語の教材
「公式ガイド英語版」「TOEFL iBT 公式オンライン
模試」「公式eラーニング」がオススメです。本番
に慣れることが目標スコア取得の近道です。



TOEFL®公式教材
ショップはこちら



GRE®とは

世界中の大学院への出願に活用されているGRE® Generalテストは、
様々な分野の大学院での勉強・研究にとって重要な、英語（言語）、数学、クリティカルシンキング、
ライティングなどの能力を測ります。

テスト時間
約2時間

セクション	スコア	問題数	試験時間
Analytical Writing	0-6	Issue	30分
Verbal Reasoning	130-170	Section 1: 12問	Section 1: 18分
		Section 2: 15問	Section 2: 23分
Quantitative Reasoning	130-170	Section 1: 12問	Section 1: 21分
		Section 2: 15問	Section 2: 26分

- ・テスト時間は約2時間
- ・最初のセクションは必ずAnalytical Writingだが、その後のVerbal ReasoningとQuantitative Reasoningの順番は順不同
- ・セクションレベルのアダプティブ方式 (Multistage)。1つ目のVerbalとQuantitativeセクションの正答率によって、それぞれ2つ目のセクションの難易度が変わる
- ・セクション内では、問題に“Mark”や“Review”のタグを付けてその問題を飛ばして後で戻って解答することも、解答を変更することも可能
- ・Quantitativeセクションではスクリーン上の電卓を使用可能

受験方法

- ・テストセンターで受験：東京（御茶ノ水ソラシティ）と大阪（中津センター）の2か所
- ・自宅で受験：ほぼ毎日受験可能

受験制限

- ・21日に1回、12か月間に5回まで受験可能

スコア有効期限

- ・5年間

受験料・申込方法

- ・受験料はUS\$220（2024年5月現在）
- ETSのWebサイトでGRE専用のETS Accountを作成して申込、クレジットカードで支払います。
https://ereg.ets.org/ereg/public/jump?_p=GRI
- My GRE Homeのページでは、申込の他、受験したスコアを確認したり、追加でスコアレポートを送付を申し込むことができます。



受験サポート

- 初めて受験される方から学習を継続中の方にもご活用いただける無料学習サポートコンテンツをご用意しています。
https://www.toefl-ibt.jp/test_takers/open_up_your_possibilities_gs/



- GREについてもっと知りたい方は、以下のETSのWebサイトをご覧ください。
<https://www.ets.org/gre/test-takers.html>





"Open up your possibilities"

～自分の可能性を広げよう～

*toefl ibt

試験会場で受験したTOEFL iBTのスコアは、アメリカ・カナダ・イギリス・オーストラリア・ニュージーランドなどの英語圏の全ての大学・大学院で、入学審査に必要な英語力の証明として認められています。また、英語圏だけに限らず、世界160か国、13,000以上の大学・大学院・その他機関で活用されており、日本国内でも大学入試、大学院入試、単位認定、教員・公務員試験や国際機関の採用の場などでスコアの活用が広がっています。

利用している大学一覧はこちらから検索できます

<https://www.ets.org/toefl/test-takers/ibt/schedule.html>



*gre

GREは、世界中の多くの大学院において入学審査の一つとして課せられるテストです。人文・社会科学、自然科学、教育学などの学術系大学院の他、ビジネススクール(MBA)、ロースクールといったプロフェッショナルスクールにおいても幅広く利用されています。また、海外からの留学生だけではなく英語のネイティブスピーカーも受験する、能力測定テストです。

様々な分野の大学院での勉強・研究にとって重要な、英語(言語)、数学、クリティカルシンキング、ライティングなどの能力を測ります。

利用している大学一覧はこちらから検索できます

<https://www.ets.org/gre/test-takers/general-test/scores/send-scores/approved-recipients.html>

